



## 平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年11月5日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ

コード番号 2613 URL <http://www.j-oil.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榎田 純和

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 立見 健一

四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日

配当支払開始予定日

TEL 03-5148-7100

平成25年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	101,913	14.7	2,742	14.3	3,018	20.6	1,755	21.0
25年3月期第2四半期	88,878	△3.0	2,400	△6.2	2,503	△1.7	1,450	12.5

(注)包括利益 26年3月期第2四半期 2,274百万円 (115.7%) 25年3月期第2四半期 1,054百万円 (△6.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	10.53	—
25年3月期第2四半期	8.69	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年3月期第2四半期	150,401		73,437		48.8
25年3月期	151,627		71,981		47.5

(参考)自己資本 26年3月期第2四半期 73,437百万円 25年3月期 71,981百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	4.00	—	5.00	9.00
26年3月期	—	4.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	214,000	14.5	6,600	1.1	6,800	0.9	4,100	1.0	24.63

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期2Q	167,542,239 株	25年3月期	167,542,239 株
② 期末自己株式数	26年3月期2Q	1,148,273 株	25年3月期	743,694 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期2Q	166,533,114 株	25年3月期2Q	166,839,948 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第2四半期連結累計期間	
四半期連結包括利益計算書	9
第2四半期連結累計期間	
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

平成26年3月期第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日～平成25年9月30日）に係る経営成績は、次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、欧州債務危機等の海外景気の下振れによる影響等が引き続きあるものの、輸出の持ち直しや企業収益の改善等を背景に景気回復の傾向にありました。

製油産業におきましては、主原料である大豆及び菜種の相場は、高値で推移する展開となりました。さらに、円安の進行が、原料調達コストを押し上げる要因となっております。

大豆のシカゴ相場は、米国大豆の需給逼迫・作付け遅延等の悪材料が重なり、4～6月にかけて1ブッシェル当たり14米ドルから15米ドル超へと大幅な上昇となりましたが、その後は米国産地において良好な天候に恵まれたことなどから下落する展開となり、1ブッシェル当たり13米ドル台で9月末を迎えました。

菜種のウィネブガ相場も、4～6月上旬にかけて1トン当たり620加ドルから650加ドルへ上昇しましたが、その後はカナダ産地において良好な天候に恵まれたことなどから下落する展開となり、1トン当たり480加ドル付近で9月末を迎えました。

以上のような原料相場の動向のほか、円安の進行も加わり、原料調達コストは大きく上昇しました。

このような中、当社は、供給責任を果たすための安定した原料調達を可能にするためにも、コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格を実現すべく、得意先に対し粘り強く理解を求めてまいりましたが、4月1日からの油脂製品の価格改定につきましては一定の理解を得られたものの、7月10日からの価格改定につきましては浸透するに至りませんでした。

他方、オリーブオイル・ごま油等の家庭用プレミアムオイルや、バターの代替として使える風味油等の業務用高機能性油の拡販や新製品の投入、付加価値型のミール製品の生産能力を増強するなどの施策に取り組みました。また、中期経営計画の柱のひとつである成長分野への展開に関しても、6月にインドで合弁契約を締結するなど、将来に向けた取り組みを実施してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高1,019億13百万円（前年同期比14.7%増）、営業利益27億42百万円（前年同期比14.3%増）、経常利益30億18百万円（前年同期比20.6%増）、四半期純利益17億55百万円（前年同期比21.0%増）となりました。

なお、本年7月11日、当社は、段ボール用でん粉の取引において独占禁止法に違反する行為があったとして、公正取引委員会から排除措置命令及び課徴金納付命令を受けました。その後、外部専門家の助言等も踏まえ慎重に検討した結果、今回の命令の内容については当社の認識とは異なることから、9月5日に同委員会に対し審判請求を行いました。当社といたしましては、今後ともより一層のコンプライアンス体制の強化・徹底を図ってまいります。株主の皆様、お客様をはじめ関係者の皆様には、多大なご心配をおかけすることになりましたことを深くお詫び申し上げるとともに、今回の審判請求に対するご理解と、引き続きのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

当第2四半期におけるセグメントの営業概況は、次のとおりであります。

#### (製油事業)

油脂部門においては、原料コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格の実現に取り組みました。

家庭用油脂は、“オリーブオイルの風味が気軽に楽しめる”新製品「AJINOMOTO Euroolive®」(ユーロリーブ)を8月に発売するなど、オリーブオイル・ごま油等のプレミアムオイルを中心に拡販し、販売数量は堅調に推移しました。

業務用油脂は、“長く使える”をコンセプトにした「長調得徳®」シリーズのラインナップに、ボトル製品を新たに加えるなど高機能性油の拡販に注力し、販売数量は前年同期から微増となりました。

マーガリン部門においては、家庭用マーガリンは、3月に発売した新製品「カルピス®ソフト」が好評を博したものの、全体として販売数量は前年同期から微減となりました。業務用マーガリンは、昨年6月に発売した“自然な乳の風味”が特長の新製品「マイスター®デリシア」が堅調に推移したものの、全体として販売数量は前年同期をやや下回りました。

油糧部門においては、大豆ミール・菜種ミールの販売数量が堅調に推移したことに加え、穀物相場の上昇や円安進行に伴い販売価格も上昇したことにより、売上高は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、当事業の売上高は940億99百万円(前年同期比15.4%増)、セグメント利益は40億73百万円(前年同期比9.8%増)となりました。

#### (その他)

飼料部門においては、酪農家戸数と乳牛飼養頭数が減少する依然として厳しい販売環境の中、販売数量は前年同期を下回りましたが、大豆ミール等の原料相場上昇に伴う販売価格の改定により、売上高は前年同期を上回りました。

スターチ部門においては、粒状澱粉「ネオトラスト®」等の新製品や特殊とうもろこしであるハイアミロースコーンスターチに注力した販売活動を展開した結果、販売数量は前年同期を下回ったものの、売上高は前年同期をやや上回りました。

健康食品部門においては、健康食品事業は、「百歳の朝食」をテーマにした大豆レシチンの拡販を行いました。全体として売上高は前年同期を下回りました。ファイン事業は、トコフェロールが旺盛な需要を受け伸長したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。大豆蛋白を原料とするシート食品「まめのりさん®」は、米国向けを中心に順調に拡販したものの、全体として売上高は前年同期を下回りました。

化成品部門においては、主たる需要家である木材建材産業では、住宅取得支援制度等により新設住宅着工戸数が増加したものの、原油価格の上昇により石油化学系原料が値上がりする厳しい環境にありました。このような状況の下、主力製品の木材建材用接着剤の拡販等に努め、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の売上高は78億14百万円(前年同期比6.9%増)、セグメント利益は1億72百万円(前年同期比17.9%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期末の総資産は、前期末と比べ12億26百万円減少し、1,504億1百万円となりました。主な増加は、たな卸資産(合計)が25億42百万円、投資その他の資産(合計)が16億63百万円であります。主な減少は、前期末日が銀行休業日であった影響から受取手形及び売掛金が34億60百万円減少しているほか、現金及び預金が2億73百万円、流動資産その他が2億70百万円、繰延税金資産(流動)が2億9百万円、有形固定資産が11億36百万円であります。

負債は、前期末と比べ26億82百万円減少し、769億63百万円となりました。主な増加は、借入金合計が109億16百万円、繰延税金負債(固定)が3億1百万円であります。主な減少は、支払手形及び買掛金が51億69百万円、社債合計が50億円、未払法人税等が13億68百万円、流動負債その他が23億28百万円であります。

純資産は、前期末と比べ14億56百万円増加し、734億37百万円となり、自己資本比率は48.8%となりました。

## (連結キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期末における現金及び現金同等物は、前期末と比べ2億73百万円減少し、56億56百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益28億18百万円を計上し、減価償却費26億69百万円、たな卸資産の増加25億43百万円、売上債権の減少34億60百万円、仕入債務の減少51億69百万円、未払金及び未払費用の減少12億76百万円、法人税等の支払額21億56百万円などにより、19億72百万円のマイナスとなりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、既存設備の維持・更新投資による支出などにより32億29百万円のマイナスとなりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、一時的な運転資金の増加に伴う借入金の調達により49億28百万円のプラスとなりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

製油産業におきましては、原料相場は依然として高値圏で推移しております。また、為替相場における円安の影響により、原料及びエネルギーコストが上昇しております。このような中、当社は、製品価値に見合った販売価格の実現に向け、今後も粘り強く得意先に対し理解を求めてまいります。また、「長調得徳®キャノーラ油」の業務用ボトル製品や、家庭でオリーブオイルの風味が気軽に楽しめる「AJINOMOTO Eurolive®」(ユーロリーブ)等の新製品の拡販に努めるとともに、生産の効率化等によるコスト削減を強力に推進してまいります。

以上により、当期の業績予想につきましては、前回発表(平成25年5月9日)の数値から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,929	5,656
受取手形及び売掛金	40,643	37,182
商品及び製品	14,016	16,215
原材料及び貯蔵品	20,509	20,852
繰延税金資産	1,438	1,229
その他	2,386	2,116
貸倒引当金	△8	△8
流動資産合計	84,915	83,242
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,729	12,613
機械装置及び運搬具（純額）	18,509	18,257
土地	19,743	19,743
建設仮勘定	1,473	826
その他（純額）	1,209	1,088
有形固定資産合計	53,665	52,528
無形固定資産	456	382
投資その他の資産		
投資有価証券	11,695	13,452
長期貸付金	246	109
その他	731	775
貸倒引当金	△138	△138
投資その他の資産合計	12,535	14,198
固定資産合計	66,657	67,110
繰延資産	54	47
資産合計	151,627	150,401



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	20,154	14,985
短期借入金	14,350	20,750
1年内返済予定の長期借入金	2,722	2,475
1年内償還予定の社債	5,000	—
未払法人税等	2,171	803
未払消費税等	33	15
賞与引当金	1,004	948
役員賞与引当金	33	16
その他	11,501	9,173
流動負債合計	56,972	49,168
固定負債		
社債	12,000	12,000
長期借入金	239	5,002
繰延税金負債	3,587	3,889
退職給付引当金	3,051	3,151
役員退職慰労引当金	340	361
環境対策引当金	160	160
長期預り敷金保証金	2,216	2,235
その他	1,074	993
固定負債合計	22,672	27,794
負債合計	79,645	76,963
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	27,388	28,441
自己株式	△240	△356
株主資本合計	68,781	69,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,098	3,762
繰延ヘッジ損益	113	△62
為替換算調整勘定	△11	19
その他の包括利益累計額合計	3,200	3,719
純資産合計	71,981	73,437
負債純資産合計	151,627	150,401

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	88,878	101,913
売上原価	74,836	87,091
売上総利益	14,042	14,822
販売費及び一般管理費	11,642	12,080
営業利益	2,400	2,742
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	142	178
持分法による投資利益	57	154
雑収入	59	71
営業外収益合計	262	406
営業外費用		
支払利息	124	92
雑支出	33	37
営業外費用合計	158	130
経常利益	2,503	3,018
特別利益		
固定資産売却益	0	4
投資有価証券売却益	—	0
関係会社清算益	10	—
特別利益合計	10	5
特別損失		
固定資産除却損	94	130
固定資産売却損	0	—
減損損失	0	2
投資有価証券評価損	12	11
会員権評価損	0	—
リース解約損	2	6
課徴金等	—	54
特別損失合計	110	204
税金等調整前四半期純利益	2,404	2,818
法人税、住民税及び事業税	750	805
法人税等調整額	203	258
法人税等合計	953	1,063
少数株主損益調整前四半期純利益	1,450	1,755
少数株主利益	—	—
四半期純利益	1,450	1,755

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,450	1,755
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△259	662
繰延ヘッジ損益	△140	△176
持分法適用会社に対する持分相当額	3	33
その他の包括利益合計	△396	519
四半期包括利益	1,054	2,274
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,054	2,274
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,404	2,818
減価償却費	2,891	2,669
減損損失	0	2
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△3	0
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△2	99
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△22	20
賞与引当金の増減額 (△は減少)	109	△56
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△22	△17
受取利息及び受取配当金	△145	△181
支払利息	124	92
持分法による投資損益 (△は益)	△57	△154
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△4
投資有価証券売却損益 (△は益)	—	△0
関係会社清算損益 (△は益)	△10	—
固定資産除却損	94	130
投資有価証券評価損益 (△は益)	12	11
社債発行費	4	6
課徴金等	—	54
売上債権の増減額 (△は増加)	△115	3,460
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,758	△2,543
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,889	△5,169
未払金及び未払費用の増減額 (△は減少)	△1,417	△1,276
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△857	63
その他	342	39
小計	3,458	67
利息及び配当金の受取額	162	212
利息の支払額	△109	△96
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,659	△2,156
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,852	△1,972

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△3,136	△2,588
有形固定資産の売却による収入	2	0
有形固定資産の除却による支出	△119	△154
無形固定資産の取得による支出	△94	△15
投資有価証券の取得による支出	△10	△572
投資有価証券の売却による収入	—	1
関係会社の整理による収入	20	—
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△0	△0
長期貸付けによる支出	△1	△0
長期貸付金の回収による収入	26	99
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,312	△3,229
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,170	6,400
長期借入れによる収入	—	5,900
長期借入金の返済による支出	△6,323	△1,397
社債の発行による収入	11,935	—
社債の償還による支出	—	△5,000
リース債務の返済による支出	△144	△142
自己株式の純増減額 (△は増加)	△23	△1
配当金の支払額	△667	△829
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,605	4,928
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	144	△273
現金及び現金同等物の期首残高	5,955	5,929
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,100	5,656

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	81,568	7,309	88,878	—	88,878
セグメント間の内部売上高 又は振替高	129	21	150	△150	—
計	81,698	7,330	89,029	△150	88,878
セグメント利益	3,709	209	3,919	△1,519	2,400

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△1,519百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,519百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	94,099	7,814	101,913	—	101,913
セグメント間の内部売上高 又は振替高	161	26	187	△187	—
計	94,260	7,841	102,101	△187	101,913
セグメント利益	4,073	172	4,245	△1,502	2,742

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△1,502百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,502百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。